

# 長門湯本温泉の コンセプト案について

令和元年 10月

長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議

# 【1】これまでの議論の整理

①内田先生よりコンセプトの必要性のご意見



②6月デザイン会議にて、コンセプト作成についての議論

→ビジュアルイメージとセットで検討を行うことで決定



③7月デザイン会議にて、LEM長町氏よりビジュアルとセットでのたたき案の提案

→検討の結果「川愉し、湯愉し、街愉し」のキャッチフレーズを選定



④マスタープラン作成者である星野Rの石井氏も参加の上、地元メンバーと長門湯本温泉の魅力や

競合温泉地と比較した際の目指すべき姿、その表現の仕方について議論し、ワーディングを検討

→「せせらぎに 遊びて集う 温泉街」のワードを選定



⑤8月デザイン会議にて、「せせらぎに 遊びて集う 温泉街」の提案、川原氏より観光コンセプトの考え方・事例紹介

→まちづくりのコンセプトと観光のキャッチフレーズを分けて考えることで決定

→まちづくりのコンセプトと併記する内容を補完するステートメントの必要性を確認

→次回までにステートメントを川原氏で検討



⑥8月デザイン会議後、可能であれば同じ文言にすべきとの意見もあり再議論

→並行してステートメントの検討



⑦9月デザイン会議にて再度議論

→議論の結果、まちづくりのコンセプトと観光のキャッチフレーズを分けて考えることで再決定

→まちづくりのコンセプトは「遊びて集う温泉街」で決定

→まちづくりのコンセプトに併記するステートメントも議論

## 【2】考え方の整理

- ・コンセプトを、まちづくり全体のコンセプトと観光向けのコンセプト（キャッチフレーズ）の2種類で整理。
- ・まちづくり全体のコンセプトは背景の考え方を含むステートメントとセットでより深く理解してもらう、一方観光向けのものはビジュアルとセットで分かりやすく長門湯本温泉に行く動機をつくることを目的。
- ・本来であれば同じテキストに出来ることが望ましいが、議論を重ねた結果、いま発展途上の長門湯本温泉の場合、目指しているものと現状の風景（観光的に出せるビジュアル）に差異があるため、明確に分けた考えたほうがよいと考え、それぞれで考え方を整理した。

	まちづくりのコンセプト	観光のキャッチフレーズ
目的	地元含む関係者の意識統一 事業者に向けてのメッセージ まちづくりへ興味がある人への訴求	観光客への訴求
ターゲット	まちづくりに関係する・興味がある人やメディア 地域の内側、内側に入ってほしいプレーヤー向けのインターナルブランディングである。	全方位の観光客 観光雑誌・メディア
内容	コンセプト ステートメント 暮らしを想起するようなビジュアル	キャッチフレーズ 行きたくなるビジュアル
現状案	「遊びて集う温泉街」	「川愉し、湯愉し、街愉し」
ビジュアルで表現するもの	人や暮らしの風景	行ってみたい、入ってみたい場所
運用	<ul style="list-style-type: none"><li>・5年程度は継続して同じものを使用するイメージ（その分考える余白とか多様性を含む）</li><li>・インタビューやまちづくり関連の発信などで使用。</li><li>・今後関与者が増えていき、みなが共感できる方向性が一定の方向に際立ってきて、新しい言葉が生まれれば変更してよい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・1～2年間、あるいは季節ごとなどで変える短期間での運用</li><li>・良いものが出れば継続使用し、最終的にまちづくりのコンセプトになっていく可能性もあり。</li><li>・ビジュアルは一つに絞らず全方位をカバーできるように様々な視点のものを選定。</li></ul>

# 【参考】これまでにあったコンセプト・キャッチコピー

## 長門湯本温泉観光まちづくり計画

- 地域のタカラ、地域のチカラで、湯ノバージョン
- 萩焼深川窯の器との出会い、湯めぐり、そぞろ歩きが楽しみな長門湯本温泉街

## 長門湯本みらいプロジェクト

- 癒され方改革

## 長門湯本温泉旅館協同組合

- やすらぎの湯 心のふるさと 湯本温泉

## 長門市観光コンベンション協会

- Nagato is calling  
長門の旅はここから始まる 潮騒の響き、海山の美味、温泉のぬくもり……。心も体も癒せる街へ。
- 「今も昔も変わらない、癒しを求める。」  
(Nagato is callingページ内の長門湯本温泉の説明冒頭部分)

# 【4】コンセプト・ステートメント案

## 「遊びて集う温泉街」

### ステートメント

「遊びて集う温泉街」とは、温泉街と一体となった音信川の絵になる景色、そのせせらぎに直に触れられる川床や遊歩道、萩焼の窯元集落といった環境に触発されつつ、まちを楽しむことをめざす、長門湯本温泉の目標です。

生活者や事業者、観光客が、この地に受け継がれてきた美の規範がつくりだした環境を活かした「遊びて（手）」として集い、この環境を「遊びて（享受しつつ）」暮らす生活や体験を通じて、地域の人やこの地を訪れる観光客が奥深い魅力を感じられるまちになっていきたいという想いを込めています。

### ステートメント補足説明

いま、この地に受け継がれた歴史や文化が様々に結びついた「遊びて」の集える場や取組みが、生まれつつあります。外湯「恩湯」と広場、萩焼カフェ、リバーフェスタ、絵になる夜景…。萩藩主がたびたび訪れた上質な湯治場、代々の萩藩主の文化的趣向が生んだ萩焼の御用窯集落、さらに遡り、長門湯本温泉の泉源の伝説を持つ古刹大寧寺といった歴史や文化が今につながる温泉街なのです。

### 使い方メッセージ

「遊びて集う温泉街」は、長門湯本温泉に住み、働き、活動する人が、この地の歴史や環境を活かしてそれぞれの立場の創造的発想で参加可能な、観光まちづくりのコンセプトです。また、その姿に魅力を感じて様々な生活者や観光客が集うことをめざした地域プロモーションの取組みです。みなさんの生活や事業の中にさりげなく、この「遊びて集う」イメージを取り入れて、一緒にこの取組みを盛り上げましょう。

参照元、備考、解説など

「遊びて」の意図と定義を簡潔に説明。  
下記の要素が含まれているかを確認。

- 魅力的な温泉街 6 要素
- 地域ブランドアイデンティティの要素



歴史の記述→上質さ、文化価値を伝えるものとして入れる。

開放的な気質→歴史的なことが閉鎖的に取られないように作成。

このような文章を増やしていけば、長門湯本温泉を紹介するストーリー動画の台本となるイメージ。

使って欲しい人に向けてのメッセージも必要。「自ずと広まる」ことを目指す。